

湯本武比古 たけもと たけひと 教育學者。安政二年十一月一日信濃國生れ、大正十四年九月二十七日歿（八五—一九二五）。號乙齋、星河漁夫、湯武居士。明治十六年東京高等師範學校（物理學教場掛）教授、翌年文部省御用掛に轉じて國定教科書編輯局の勤務、かみかみ『讀書入門』（明治十九年刊）著者はした。十九年 はらののみや 明宮（大正天皇）の傳育官に任命せられ、尋いで學藝院教授となるも、二十五年ドイツ留學から歸朝後、兼職。この間のことは、湯本の回想録『今上陛下御幼時の御教育』（大正四年刊）に據りて書かれた飯沢匡著『異史明治天皇伝』（昭和六十三年六月）十七日新潮社（に詳しい。その後は野に下り、精華學園、京北中學校等と設立し、雜誌『教育時論』主幹を務めた。著書の『新編教育學』（明治二十七年十月一日普及舎）、開發社の叢書『修身童話』七冊『ねのこばら』（明治二十二年六月二十日刊）、八『こぶとり』（明治二十二年十一月十日刊）、九『おきこゑやま』（明治三十四年五月二十日刊。以上三書はそれぞれ『ふろく』としてぐりむ童話一篇を収録）、『ちーよくご』とくほん』（三版・明治三十四年二月二十日刊、開發社發賣）、『勅語述表』（大正二年二月十三日刊、開發堂・山海堂發賣）等。また、『故湯本武比古先生』（林竹次郎・所金藏編、昭和二年七月五日京北中學校）がある。

